

特別支援学級での「わいわい文庫」の活用

墨田区立ひきふね図書館
高村 弘晃

はじめに

「公共図書館は地域に生活するすべての人に開かれている。」(山内薫(2008)『本と人をつなぐ図書館員』読書工房 p186)と日本の図書館における障害者サービスの草分け的人物である山内薫氏は述べています。

図書館を利用したくても利用できない人が大勢います。そうした人のもとに出かけていき、その人が本を読めるように、使いやすいように、資料の形態を変えて本人が容易に本を読めるように提供することが必要になります。そういうことを実現することが図書館の障害者サービスです。

墨田区立図書館の 障害者サービス

墨田区立図書館の障害者サービスは、1970年代に当時図書館員であった山内薫氏を中心にして開始されました。その後、利用者の方々、ボランティアの方々のご理解とご支援をいただき、いまでは障害者資料の貸出をはじめ、障害者施設への出張貸出、ボランティア

による読み語り、DAISY図書などの資料作成、宅配サービスなど、区立図書館全4館で実施しています。

また、近年では、公益財団法人伊藤忠記念財団からのマルチメディアDAISY図書の寄贈を受け、学習障害の一種であるディスレクシアの障害がある子どもなど、読書とは今まで縁遠かった子どもも読書を楽しむことができるようになりました。

今回は、今まで取り組んでこなかった中学校の特別支援学級での取り組みを紹介したいと思います。ただし、2020年冬から流行し始めた新型コロナウイルス感染症の影響で、図書館の障害者サービスの提供も一部困難になる事態になり、苦肉の策として、小学生を対象とした放課後等デイサービス事業所とのリモート読み聞かせ会を開催するなどの新しい取り組みも始め、少しでも子どもたちに読書を楽しんでもらいたいと図書館員は日々汗をかき、工夫を凝らしています。

マルチメディアDAISY図書の活用事例

墨田区立中学校の特別支援学級におけるマルチメディアDAISY図書の活用事例を紹介します。

この学級では、総合学習の時間での年間の取り組みとして、読書の機会を設けることを、学校図書館を会場に計画しました。授業は週1回1時限で、特別支援学級生徒9人が授業を受け、教員と指導員合わせて5人で指導をしています。

生徒たちの障害はさまざまですが、本を集中して読める生徒、興味はあるけれど手を出さない生徒、まったく読めない生徒に大別されます。

ある生徒は、本に興味があるけれど手を出さないタイプでした。学校図書館司書が、その生徒にマルチメディアDAISY図書のタブレット端末を渡し、「絵と音声が出てくるから使ってみないか。」と声をかけました。使ってみたら、生徒本人は「ツールを使うと面白い!」と言って、ツールを操作しながら、落ち着いて観ていました。作品は『スーホーの白い馬』、『東京スカイツリーのしくみ』、『海の中をのぞいてみよう』、『一休さん』など、端末に入っている作品をアトランダムに観ながら、椅子に座り、落ち着いて読書をしていました。

また、もう一人は、学校にあまり慣

れていないと見受けられ、本をほとんど読んだことが無いということでした。学校図書館司書が、その生徒と話をしていくうちに、探検、サバイバル、歴史の分野に興味があるということがわかり、一般書の『歴史漫画タイムワープシリーズ』（朝日新聞出版）を紹介しました。生徒本人は「その本だったら、読みたい!」ということになり、熱心に楽しそうに本を読んでいた。

そうすると、面白いことに、先に紹介したマルチメディアDAISY図書を観ていた生徒が「楽しそうに読んでいるから、自分も読んでみたい!」と言い出し、この生徒も楽しそうにその一般書を読み始めたのです。

マルチメディアDAISY図書がきっかけとなり、読書を敬遠気味であった生徒が読書をするようになり、また、本をまったく読まなかった生徒が興味・関心が向いた本に出会えたことで読書をするようになったことが、小さいですが、明るい一歩であると思いました。

その後、マルチメディアDAISY図書を端末で観ている生徒を見た他の生徒から、自分も端末を操作したいという声が多くなりました。生徒なりに端末の音量を上げたり下げたり、読むスピードを遅くしたり速くしたりして、自分のペースに合わせて調整することで、読書を楽しむ輪が広がっています。

また、この時間では、「ito」（イト）と

いう価値観共有ゲームを活用して、個性が強い生徒同士がゲームを楽しみながら合意形成する体験を行っています。今までに最も盛り上がったのは、ポケモンキャラクターをテーマにした時だったそうです。

このように学校図書館において、障害のある生徒に読書の機会を設けるためには、マルチメディアDAISY図書をはじめとして、一般書やボードゲームなど多様なメディアを活用することにより、子どもの興味・関心を呼び起こし、読書へいざなうことが効果的であると考えられます。

マルチメディアDAISY図書への期待

マルチメディアDAISY図書は、近年、とても注目されている障害者向け図書のメディアです。特に、文字を読みづらい障害のあるディスレクシアの人にとっては社会への入口となる重要なものとなっています。

ただし、現状では、その図書の供給はかなり限定的であり、そのため一般

書に比べて図書のコンテンツが少なく、障害のある人々の興味・関心に十分には応え切れていない状況にあります。

ひきふね図書館では、今年度、マルチメディアDAISY図書を自作できるソフトウェアを購入し、図書館員が利用者の要望に応じて、短期間で本を提供できる体制を構築していくことにしました。まだ、試作品を制作している段階で、障害者に提供できる水準には至っていませんが、今後、みなさまからのアドバイスをいただきながら、障害者のニーズに応えていきたいと考えています。

また、今回のコロナ禍で、なかなか障害者施設へ出向いてのマルチメディアDAISY図書を活用しておはなし会が開催できない事態となっており、活用の方が非常に少なくなっています。しかし、一方で、国のGIGAスクール構想で、児童・生徒にIT端末が個別配布されることになり、今後、この端末を利用したマルチメディアDAISY図書の利用が広がっていくことを期待しています。